

## 「大腸ポリープについて」

北崎医院 北崎 滋彦  
若松区白山 1 - 2 - 21  
TEL : 761 - 4696

大腸ポリープとは、大腸の内壁にできた、きのこ状やいぼ状の腫瘍の総称です。大腸にできるポリープのおよそ 80%は、腺腫といわれる癌になりやすいポリープです。大腸ポリープは、直腸に最も多く、次に S 状結腸に多く発生します。(最近では上行結腸や横行結腸、下行結腸、盲腸での発生も増えています。)

年齢的には 40 歳以降に多くみられ、高齢になるほど増える傾向にあります。自覚症状はほとんどありません。ただしポリープが大きくなると腹痛や下痢、お腹が張る、便が出にくいなどの自覚書状がでてきたり、便が接触することにより少しずつ出血することがあります。目でみても判らないような出血もある為、便潜血検査で判定しています。(便潜血が陽性の方の大腸を内視鏡等で検査すると半分以上の方に大腸ポリープや大腸癌を認めています。)

では、ポリープが発見され、それが腺腫性のポリープであった場合は、その形や表面の性状などを調べて治療が必要かどうかを診断し、治療方針を決めます。小さなポリープであれば、その後も定期検査をしながら経過を観察することもあります。大きなポリープの場合は、内視鏡の先端から針で、ポリープの下に生理食塩水を注入し、病巣部を盛り上げて隆起をつくり、スネアと呼ばれるループ状のワイアを出してポリープにかけ、人体に影響がない高周波電流を流して焼き切って治療します。切除したポリープは、組織を顕微鏡で調べ、問題なければこれで治療は完了です。(当院では 1 泊 2 日の入院で治療しています。)

大腸ポリープの予防としては、

偏食を避け、いろいろな食事をバランスよく食べる。(特に緑黄色野菜は意識して多く摂る)

1 日 3 食、きちんと食事をとる。

食物繊維を多く含む食品を摂る。(穀類、いも、豆、野菜、果実、海藻、きのこなど)

動物性たんぱく質や脂肪を摂りすぎないようにする。

ビフィズス菌や乳酸菌飲料を飲む。

ウォーキングなどの適度な運動をする。

朝食後のトイレタイムはたっぷり。

以上の事に気を付け、少なくとも年に 1 回は定期的に内視鏡検査を受ける事が大事です。